

玉木 彰(編)

「DVD で学ぶ呼吸理学療法テクニック —呼吸と手技のタイミングがわかる動画 91」

居村茂幸

茨城県立医療大学大学院保健医療科学研究科教授

日本の理学療法士が対象としている疾患は、その誕生の歴史を反映して現在も脳卒中や骨関節系の疾患が上位を占めてはいる。ただ、内臓障害に起因する疾患、なかでも呼吸機能の障害に対する理学療法件数が、全体の割合は高くはないものの、新たな疾患別健康保険制度に追い風を受けたためか急速に増加していることが近年の特徴である。この呼吸障害に対する理学療法教育を振り返ると、臨床としては古い歴史を持つものの、実際にどの程度熱心に教育されていたかはいささか心許ない。どれほどの需要、すなわち医師からの指示がどの程度あったかも考えなくてはならないが、この障害に対する理学療法が、理学療法学の辺境として一部の理学療法士によって細々と行われてきたと言っても過言ではない現実もあった。

ここ 10 年来、呼吸器の障害に関する医書が数多く出版されたが、理学療法士にとってこの分野は障害医学ばかりではなく治療医学にも近い分野として捉えられており、そのためか当初は呼吸理学療法の有効性を身近に思われた医師の著書がかなりの割合を占めていた。それら数ある書籍の中で、理学療法士でもある本書の編集者は、呼吸理学療法を自分たちの専門分野とする立場・切り口で編集しており、呼吸器疾患の治療

と障害、それに対する理学療法の実際を DVD を介した映像として素敵な調和を持って表現されていて、痒いところに手が届く逸品と言ってよいだろう。各執筆者も、編集者が理学療法士として今まで取り組んでこられた仕事の意図を十分に把握された上での執筆と拝読できた。また、読者を若手療法士と考えて編集されたようだが、DVD で示された懇切丁寧な手技の解説は、かなり経験のある療法士も、また呼吸障害治療に関与する他の医療職にも十分に得るものがあり、必読・必見であろう。症状の適切な評価のための具体的なアセスメントから始まり、治療のための様々な呼吸理学療法の手技の実際、その解釈、加えて術者たる理学療法士のポジションの重要性など、各地で開催されている実技講習などでは十分に得られない実際の手技と、そのナレーション入りの映像での解説は特筆すべきものであり、DVD というメディアで繰り返し再学習できることは誠にありがたい。昨今、呼吸理学療法の講習会が医療従事者を対象に開催されているが、実践の場での有効性について疑問を呈する声も一部にはあるようだ。短期間での講習のために講師がテクニックを十分に伝えられなかったことなどがその一因かもしれない。単発の講習では忘れやすい呼吸理学療法テクニックの学習・再学習のためによい DVD 付き書籍である。本書を座右に置き、今後の正しい呼吸理学療法業務に役立てていただきたい。

●B5 判 206 頁(2 色刷)

定価 6,300 円(本体 6,000+税 5%)

2008 年 南江堂・刊